

大阪 あちこち

●古の貴人の墳墓 — 石宝殿古墳

寝屋川市東端の打上^{うちあげ}の集落の中を通過して裏山へ続く道の終点に打上神社があり、この神社の東側の細い山道を100mほど進んだ所にある巨石^{いしのほうでん こふん}が、石宝殿古墳です。

石宝殿古墳は生駒山地からのびる丘陵に築かれた古墳です。巨大な花崗閃緑岩^{か こうせんりよくがん}という硬い石をくり抜いて「石槨^{せっかく}」と呼ばれる死者を葬る部分が造られています。石槨は、上面を平坦に加工した底石（下石）の上に直径3m、高さ1.5mの内部をくり抜いた蓋石を重ねたものです。内部は幅0.9m、高さ0.8m、奥行き2.2mで南側に入口があります。入口部分には左側の上下に丸い凹みがあり、本来は扉のようなものがあつたと考えられます。この石槨の前には1.4mの間隔で板石が立てられており羨道^{せんどう}と呼ばれる通路部分を造っています。



同様な形をした横口式石槨は、奈良県斑鳩町の御坊山3号墳、明日香村の鬼の俎・雪隠^{まないと せっちん かわや}（廁）が知られているだけで、きわめて珍しい構造をもっています。このうち、御坊山3号墳は調査が行われており、石槨内には漆塗りの陶棺が納められており、中国製の三彩陶器^{さんさい}の硯^{すずり}、琥珀の枕などが出土しました。石宝殿古墳の場合は既に石槨が開口しており、どのような棺や遺物が納められていたかはわかりませんが、同様なものが納められていたと推測されます。古墳は7世紀の中頃に築かれたと考えられます。



古墳は江戸時代までには今のように石槨がむきだしの状態になっていたようです。古墳の背後には3個の巨石が一行に並んでいます。昭和63年（1988）に行われた発掘調査で、この列石に続く石が埋まっていることがわかりました。この列石の西側に135度曲げて置かれており、この石を古墳の外側のラインとすると、古墳の形が八角形となる可能性が出てきました。こうした八角形古墳には天智天皇陵古墳、天武・持統天皇陵古墳、中尾山古墳などがあります。

石宝殿古墳の築かれた7世紀には、奈良県の飛鳥地域および「近つ飛鳥」と呼ばれる大阪府羽曳野市・太子町・河南町に集中して天皇・皇族やその側近が葬られたと考えられる古墳が築かれており、近畿地方の他の地域では古墳の築造はほとんど行われなくなります。この時期に北河内地域で唯一築かれた石宝殿古墳は、古墳の形や埋葬施設からも、かなりの有力者が葬られていたと考えられています。



▼お問い合わせ先▼

寝屋川市社会教育部文化振興課

TEL 072-838-0188 (直通)

E-mail bunka@city.neyagawa.osaka.jp